

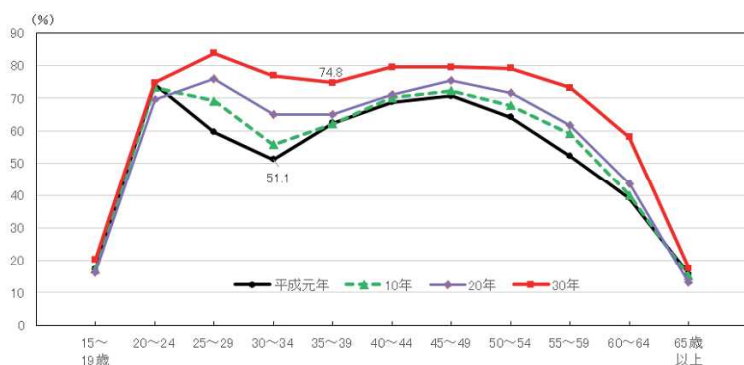


男女共同参画の気になる用語①「M字カーブ」とは？

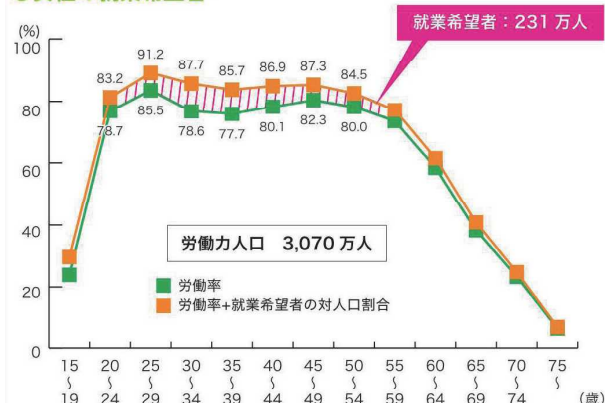
女性の年齢階級別の労働力は、学校卒業後20歳代でピークに達した後結婚や出産・育児期に労働市場から撤退するため落ち込み、その後子育てがひと段落した頃に再び働き出すという特徴があります。これをグラフで表すとちょうどアルファベットのMの形に見えることから「M字カーブ」と呼ばれています。

徐々にこのカーブは浅くなってきていますが、それでも子育てなどで離職しなければならないという現実があり、その後再就職できたとしても非正規雇用などが主で、正規雇用者との賃金格差や長期キャリア形成が難しく職場での知識や経験を蓄積しにくいなどまだまだ厳しい状況にあります。

M字カーブをさらに解消していくためには、在宅勤務やリモートワークの導入、また男性の育児休暇取得の推進など、結婚や出産等によって就業を中断しなくても良い環境を設備していく必要があります。また、女性の非労働力人口のうち231万人が就業を希望しており、それが実現すれば更なる労働力率の上昇にもつながります。



●女性の就業希望者



男女共同参画の気になる用語②「ポジティブ・アクション(積極的改善措置)」とは？

様々な分野において、社会的・構造的な問題により不利とされている一方に対し、必要な範囲で改善の機会を積極的に提供することです。これは「積極的に女性と男性を同じ数にしなければいけない」という事ではなく、制度上は男女を区別した取り扱いをしていないのに、性別により役職などが固定されている場合に、機会均等を実現させることを目的とした自主的な取り組みの事を言います。

男女格差が解消されていく事で次のような事が期待されています。

● 男女がともに参画し合う社会の良いところ ●

- ・男性だけ、女性だけの団体に比べ、それぞれの視点から課題や問題点を見つけ、柔軟な対応が出来るようになる
- ・適正に役割を分担する事で自分の能力を最大限に発揮できる
- ・どちらかに任せっぱなしになる事なく、みんなで団体を運営しているという意識が高まる
- ・男女差別をはじめとした、人々が無意識下に持っているあらゆる偏見が払拭されていく

